

MAENAN SAH Journal Vol.35

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Mar. 7th, 2024

『生活委員会』発案『身だしなみ新ルール』

SAH Journal Vol.25でお伝えしたように、「生活委員会」「生徒会」「生徒有志」のメンバー34名で身だしなみルールを見直し、前南の新ルール作成に向けた話し合いを2学期当初より続けてきました。今回、その新ルールが完成しましたので皆さんにご紹介したいと思います。また、生徒たちがどのような取り組みをしたのか、この取り組みを通してどのような成長を遂げたのかも併せてご紹介できればと思います。(生活委員会顧問 高田 慧)

1. これまでの取組

生活委員会では、SAHの取組の一環として9月から身だしなみルールの見直しを進めてきました。アンケートを実施したり、意見を交換したりしながら前南生が自分たちで作る新ルールが徐々に形作られていきました。

活動を進める中で、『清潔感のある』『社会で通用する』という言葉がキーワードになることが分かってきました。とはいえ、抽象的な概念であるため、自分たちだけで判断するより、『高校生を採用する際に判断をする立場である企業や大学の方々』に意見を聞いてみてはどうだろうということになり、企業・大学訪問を行うことになりました。吉田鉄工所、メモリード、前橋工科大学、群馬医療福祉大学(敬称略)へは現地にお邪魔させていただき、担当者から話を聞かせていただきました。ベイシア(敬称略)からは書面で回答をいただきました。予定していた質問以外にも、参加した生徒からは積極的な質問が飛び交い、この取組に主体的に向き合い、納得するルールを作りたいという意志が感じられました。

訪問した際に教えていただいたことをヒントにして、3学期からは『どういう言葉・表現』にまとめていこうかと試行錯誤を始めました。ここからは、立候補したメンバーと生徒会役員の代表メンバーの計10名で詰めていくことにしました。毎回、活発な議論が行われ有意義なやりとりができたと思います。

2. 生徒の成長

これまでの取組について、代表の生徒から感想を交えて語っていただきました。ご一読ください!

私はルールの見直しにより、前南生全員の生活の質が大きく向上するのではないかと感じました。今回の活動では近隣の企業等へ赴き、どの様な格好が望ましいか等の入念な調査を行った上で何度も議論を重ねることにより、生徒一人ひとりの生活の質の向上を目指すルール作りができたのではないかと思います。最前線でこの取組ができたことで、SAH事業の趣旨である「自ら考え、判断し、行動できる生徒」への第一歩を踏み出すことができたと共に、新しい前南を自らの手で作りだすことの楽しさを知りました。来年度もまた生活委員会に所属し、議論が足りず持ち越しとなっているものを再考して、私たちが卒業した後の前南生にも有益となる、そんなルールづくりを継続していきたいと考えています。(生活委員 2-5 坂田 登志光)

私はこの活動を通して、利点や欠点を考えながら意見を出し合うことの難しさを実感しました。企業訪問をしたり、休み時間に何度も集まって議論してきましたが、前南生を高校生として見ていくべきか、社会の一員として身だしなみを整えていくべきか、自分でも途中で分からなくなってしまい、とても悩みました。ですが今は正解が分からないからこそ、これから色々試していくことが重要だと気づきました。また、私はこのような本格的なディスカッションをしたり、企業訪問したりすることに慣れていなかったため、とても貴重な経験をさせていただきました。このルールの見直しのための活動の議論は終わりではないので、来年度は全校生徒の意見なども取り入れた話し合いなども行えたら様々な見方ができてもっと興味深い話し合いになると感じました。(生徒有志 2-4 上原 双葉)

私はルールの見直しの活動を行ってみて、今あるルールの曖昧さを感じました。例えば多くの場面で使われている「高校生らしい〇〇」といった表現です。企業や大学にお話を伺うとその場に見合った服装、髪型や清潔感が大切だと仰っていて、今禁止されている整髪料や化粧においてもそれらを保つ目的なのであれば自ら考えての使用をすることも社会に出る前の高校生として良い経験になるのではないかと感じました。元々決められたルールについて他人事のように感じていましたがこの活動を通して自ら意見を出し判断し行動してそれによって様々な変化が見られSAHの大切さを学ぶことができたと共に自分自身の成長にもつながったと思います。来年度は今年度行った議論をもとに実際のルールに反映させ、未来の前南生に繋がるより良い前南にしていきたいです。

(生徒会役員 2-5 飯島 湊)



↑上毛新聞に取り上げてもらいました。



3. 身だしなみ 新ルール

前南新ルール（仮） 2024.3月版

「学びの場である学校にふさわしい身だしなみ」とは...

私たち生活委員会、生徒会役員、有志のメンバーで前南の身だしなみ新ルールを考えました。企業や大学を訪問し、社会で通用する身だしなみについて研究した結果が反映されています。これからは従来の定期的な頭髪服装指導はなくなります。身だしなみのセルフチェック化を進め、前南生として誇れる身だしなみを心掛けていきましょう。

【頭髪について】

前南生の自覚を持った「清潔感のある髪型」

—自分で「清潔感のある髪型」について考え、判断しよう—

1. 「身だしなみ」と「おしゃれ」をはき違えないようにしましょう。
2. 髪を染めること、パーマは禁止とします。
3. ピアス・化粧など、勉強を旨とする高校生活に必要なものはしないようにしましょう。
(ただし、ケガなどで必要と認められればその限りではない)
4. 寝ぐせを直したり、爪を短く整えたりすることも大切です。
※社会では、表情が見えてさわやかな印象を与える髪型が求められます。
また、ヘアピンやゴムなども地味で目立たないものが求められます。

【服装について】

制服を正しく着こなし、身だしなみに気を配る

—他者からどう思われるか想像して、清潔感を身に纏おう—

1. 制服を加工してはいけません。(「入学のしおり」に記載されているとおり)
2. ワイシャツ、カーディガン、ベスト、ポロシャツは本校指定のものを着用すること。
3. 襟章を正しくつけよう。また、汚れやしわを気にしてきれいに着こなそう。
4. 靴下、ストッキング、コート類も制服にあう地味なものを着用しよう。
(ストッキングについては黒、ベージュとし、冬服期間のみとする。)
5. 夏期略装期間及び移行期間(5/1~10/30)は、指定のポロシャツでも構わない。
またこの期間はネクタイを外しても構わない。
6. 5の期間以外では、上衣(ブレザー)はいつでも着られるように必ず持参すること。
またネクタイも着用すること。

完成した新ルールです。これを前南の生徒の皆さんに提案したいと思います。

①服装・頭髪一斉指導の廃止

まず、最も大きく変わった点は、「**服装頭髪指導**を一斉で行わなくなる

という点です。自分の身だしなみが適切かどうか、皆さん自身が日々**セルフチェック**していくことが大切です。自分がよければよいという考え方ではなく、誰が見ても前南生としてふさわしい身だしなみができていると判断されるかが重要です。社会に出ると身だしなみが整っているかは、その人のひいてはその会社の評価になります。しかし、そこには明確な基準は存在しません。曖昧な基準の中から、相手を不快に思わせない、清潔感を感じてもらえる身だしなみを自分で模索する必要があります。こういった基準を感じ取れる能力は、まさに**非認知能力**です。高校という学びの場にふさわしい身だしなみとはどのようなものか、是非『自分事』ととらえて日々実践してみてください。

②服装・頭髪について

従来のルールと大きく変更になったところはもしかするとないかもしれませんが、染髪・パーマは禁止としますし、化粧やピアスもこれまで通り禁止としました。「社会でも通用する身だしなみ」を目指してルール作りをしてきたので、そぐわないという判断です。ただ、化粧についてはむしろ社会に出たら身だしなみとしてするのが当然だという考えを企業訪問で教えていただいたので、生活委員会の中でも化粧は認めるべきではないかという意見があがりました。一方で反対意見もあり議論が重ねられました。そういった経緯があったわけですが、今回はしっかりと納得できるルール作りまでには至らなかったため、いったん判断を見送りにして、**来年度も引き続き議論を深め、より納得のいくルール作りを目指していこう**ということになりました。来年度生活

委員会に入らなかった人も、有志として議論に参加してくれたら嬉しい限りです。この新ルールは今後変更しないわけではなく、毎年議論を重ねて改編していくべきものだと思っています。**生徒全員が『当事者』**としてこの問題を考えてみてください。今まで以上に**「自律」の精神**が求められてくるはずですよ。

③名称を募集します！

この新ルールにみんなで名称をつけて身近に感じてもらいたいと思います。近日中に Google フォームにてアンケートを行う予定です。『他人事』と思わず、『自分事』として、みんなで前南をよりよい学校にしていきたいと思います。(生活委員会顧問 高田慧)

★教頭より★

『自分の学校の校則』を『生徒自身が決定する』なんて昔の高校では考えられませんでした。しかし、自由に決めていいわけではなく、『決定する際の難しさ』や『責任』が生徒のコメントから見て取れます。これは生徒が『当事者意識』を感じている証拠であり、『答えのない問い』に対し『最適解』を求めて『合意形成』を図っているという素晴らしい経験をしている証だと思えます。

ある企業を訪問した際の「社会人が心掛けるべきは『身だしなみ』であって『おしゃれ』ではない」というコトバが印象的でした。『身だしなみは相手を不快にさせないため』であり『おしゃれは自分の自己顕示欲のため』といった違いがあるということでした。『頭髪服装指導(検査)』は廃止です！『身だしなみ』の精神で『自律(セルフコントロール)』をお願いします！教頭 星野 亨

★校長より★

『校則の見直し』というとても堅く重たいイメージがありますが、『身だしなみ 新ルール』というとてもすんなりと聞き入ることができそうなイメージになりますね。これも前南生の感性なのではないかと思えます。教頭先生も述べていますが、企業や大学への訪問でお話いただいた、「身だしなみ」と「おしゃれ」をはき違えないようにしようという言葉は、皆さんに響いたようですね。自分達は満足しても、周囲が不快な思いをしたのでは意味がない。規則やルールで縛るのではなく、自分達の行動で自分達だけでなく周囲をも幸せにすること(それが Well-being)が求められているんです。引き続き議論を進め、より良いルール策定を目指すという前南生達に、この先の未来を任せてみたいですね。

校長 関根 正弘